

幸せは健康に 健康は幸せに



西津 昌廣
にしづ まさひろ
【ヤマト住建代表取締役社長】

家族の幸せとは何だろう。突き詰めていけば、それは結局、「家族がみんな健康である」ということではないだろうか。

我が家は、妻と子供二人の四人家族。私は、毎朝二匹の愛犬を連れて小一時間散歩する。そして、その後、朝風呂へ。これが実に気持ちいい。

また、妻を連れて一緒にアウトドア。最近は滝に凝っており、マイナスイオンを二人でいっぱい浴びる。

子供たちには、「勉強ばかりしないで、スポーツをきなさい」と言っている。上の娘は新体操部、息子は陸上部に入っているが、案外そう言つと、けっこう

勉強もしているようだ。

今は、四人とも健康で幸せに暮らしている。しかし、苦しい時期も過去にはあった。なかでも、創業時が一番辛かったと思う。

創業したのは、昭和六十二年、三十一歳のときだ。それまでは、やはり住宅会社に勤務していた。お客さんのことを考え、いろいろ会社に提案するのだが、なかなか受け入れてもらえない。これでは自分の思いを成し遂げられない、自分の考えていることを実際にやってみたい、という気持ちが強くなり、独立することにした。

しかし、そのときの手持ちの資金は二百万円。宅建協会に供託金など二百五十万円を支払うと、残りは五十万円。これではチラシ広告も打てない。もう時効だと思うから言いが、妻と二人で夜中まで電柱にビラを貼った。誇張する訳ではないが、ビラの数は何十万枚という数になっただろう。真冬の深夜、妻が「お父さん、寒いし帰ろ」と言う

のを、何とかなだめてビラ貼り続けた。それ以来、妻には頭があがらない。

お客さんについても、同様のことがいえると思う。当社の主力商品「木の家オアシス」は、重度のアトピーに悩む子供をもったお客さんから、「何とかして健康的な住宅をつくってほしいか」という声にもとづいて開発したものである。単板の天然無垢材をふんだんに使う。有機系の表面処理剤や溶剤は一切使っていない。

「木の家オアシス」が分譲マンションに姿を変えたのが、「アーバニスフレア」。ここまで健康を優先したマンションは、おそらく当社だけであると自負している。家族ひとりひとりの健康は、家族全員の幸せにつながる。そして、それは社員に対して……。

サラリーマン時代、私は仕事の都合で子供の運動会に行けなかったのがとても嫌だった。だから社員には、家族の行事を優先しなさい、と言っている。ま

た、社内にフットサルのチームもあるが、これは社員の自主性を尊重している。会社は、ユニフォームをつくるなど、陰から応援すればよい。

会社の基礎は私がつくるが、これからのヤマト住建は、社員たちがつくっていく。だから、私は自分の息子を決して二代目にはしない。

そんな私の将来の夢は、若年層、中年層、そしてシニア層とさまざまな年代の人たちが集まる「まちづくり」事業である。そこには、病院や学校はもちろん、公園や水辺などの自然も豊富にある。そして、何より大事なものは、お年寄りや近所の家族が、よその子供の面倒をみるなど、インターネットにはない本当のコミュニケーションがはかれるようにすることだ。それは、二十一世紀に「長屋」を復活させることでもある。

明日も、社員たちと一緒に汗を流す。夢の実現のために。そして、当社の経営理念である「万人の喜び」のために。